

機能毎の病床の状況について

病院名:大和高田市立病院 医療圏:中和

※H28年度の列は、別紙1ー3「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。
※R7年度、R8年度(2026年度)の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

			(a) ＜H28年度＞ 許可病床数	＜R7年度＞ 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)		(単位:床)	
							(b) 将来 (R8/2026年度) 病床数	(b-a) H28年度からの 増減 (自動計算)
一般 病床・ 療養 病床	高度急性期					→		0床
	急性期	重症	249床	200床	189床		200床	-49床
		軽症	71床	69床	65床		69床	-2床
	回復期			51床	49床		51床	51床
	慢性期							0床
	休棟中 (今後再開する予定)							0床
	休棟中 (今後廃止する予定)							0床
	(合計)(自動計算)		320床	320床	303床		320床	0床
精神病床							0床	
結核病床							0床	
感染症病床							0床	
介護医療院							0床	

(単位:人／日)	
1日平均 在院患者数(注2)	
1日平均 外来患者数(注3)	

※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。
(注1)最大使用病床数
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

1. 基本情報

病院名：大和高田市立病院

医療圏：中和

2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

(1) これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

全ての患者に適正なトリアージ（適正な医療サービスへの調整）ができる病院を目指す

【1】「総合診療体制」の確立

- ・院内・院外の医療資源へのトリアージ機能を強化
- ・救急医療やがん治療の高度医療を実施
- ・在宅療養支援や奈良医大の後方支援ができる回復期・在宅機能を整備
- ・幅広い診療機能を有する土台を元にした若手医師への教育の場を提供

【2】「周産期・小児医療」の診療拠点

- ・安心して出産できるような医療体制の構築
- ・安心して出産・子育てができる街づくりへの貢献

【3】「災害・感染対策」を備えた医療体制の構築

- ・災害拠点病院として、いかなる災害にも耐えうる機能・設備を充実
- ・将来の病院建替え時には耐震化だけでなく、感染症対策設備を整備

救急医療については、HCUを備えた二次救急病院として、365日24時間の救急医療に取り組んでいるところであります。令和4年2月に実施した市民アンケートにおいて当院に期待する医療サービスとして、全世代から「救急診療体制の充実」との声が多くありました。可能な限りの救急患者受入れを目標に、今後もその体制をさらに強化し、1人でも多くの患者を救えるよう努力してまいります。救急応需については2021年2,085件、2022年2,435件、2023年2,847件の受入実績となりました。2024年は2,850件を目指しているところです。今後は救急に向けた体制準備として脳神経外科の配置を目標に救急体制の強化を図ります。

がん治療については、奈良県がん診療連携支援病院として、外科・泌尿器科・婦人科を中心にがんの集学的治療（手術療法・化学療法・放射線治療・免疫療法）に取り組んでいきます。令和6年度からは外科・泌尿器科・婦人科領域でより専門的ながん治療を目指す為に、ロボット手術の導入を行いました。今後は消化器内科・呼吸器内科領域において外科・放射線治療科とさらなる連携を図り、治療体制を強化し、また、地域ニーズを踏まえた上で緩和ケア病棟の整備を行ってまいります。

令和4年から、奈良県立医科大学のご支援により、消化器内科、腎臓内科、循環器内科の先生方の増員をいただきました。内科診療体制の強化により実現した専門治療および外科系手術の件数増加を実績に、奈良県がん診療連携支援病院としてさらに充実した治療を目指していきたいと考えています。

周産期医療についてはハイリスク妊娠・分娩の患者については、奈良県立医科大学附属病院と連携して対応してまいります。新たな取り組みとしましては令和6年7月より経産婦を対象とし、計画無痛分娩を開始しています。今後も現行の体制を維持しつつ、周産期分野の拠点病院として役割を実施、拡充を図ってまいります。

小児医療については、小児二次救急輪番病院として、地域の医療機関や夜間応急診療所と連携し、平日や時間外の救急に対応しています。今後も小児医療の拠点病院として役割を実施、拡充を図り、日本アレルギー学会認定教育施設としてアレルギー治療を継続してまいります。

災害拠点病院としましては、地震等の災害発生時には被災者の受入を行うとともに、被災地へのDMAT（災害派遣医療チーム）の派遣を行います。感染症対策としましては新型コロナウイルスに対する医療提供の経験を活かし、ハード、ソフトの両面での体制強化を進めてまいります。具体的には感染管理の専門性を有する人材の確保・育成に努めます。また将来の病院建替え時には耐震化だけでなく、感染ゾーニングを考慮した構造を検討してまいります。

（２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

令和5年に奈良県地域医療連携課の事業でもある「医療機能再編支援事業」の機能再編プラン策定で検証していただいた結果、2045年までは、人口減少、少子高齢化は確実に進行するものの、医療を必要とする世代はこれからも増え続けるとの結論に至りました。

また当院で入院患者数が8人/日以上のは、高齢者に多い疾患（心不全、股関節・大腿近位の骨折、誤嚥性肺炎、胸椎腰椎以下骨折損傷）であり、これらの疾患での平均在院日数はいずれも30日を超えている検証結果となりました。

これらの検証結果から経営強化プランにも記載していますが、下記のとおり対応します。

①整形外科では、高齢者に多い肩・股関節・脊椎の手術に対応するとともに、大腿骨頸部骨折等の外傷症例についても受入を強化

②高齢者のQOLの向上に向け、耳鼻咽喉科による補聴器外装や眼科での白内障手術等の診療を継続

③腎機能が低下した患者に対しては、透析導入から慢性人工透析患者の受入まで対応。また、透析療法を開始するまでの期間が少しでも長くなるよう、保存期腎不全外来を継続

④高齢者は多くの合併症を有していることから、適切な診断・治療を行えるよう、総合内科医の確保

（３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

2040年には高齢者の割合がピークとなると予測されている。日本の高齢者は約8割が2つ以上の慢性疾患を抱えており、医療と介護の複合ニーズが高く、在宅での継続的なケア提供が必要である。現在、当院には在宅医療支援科が設置されており、メディカルショートステイや在宅では困難なCT、MRI、内視鏡検査等の受入れを行っている。将来的には地域の在宅医が患者が急変した時やレスパイトが必要な際に当院が受入れる窓口となり対応できる体制の整備を行いたい。

また、当院では多職種による様々なチーム医療を行っており、そのうちNST委員会では市の地域包括ケア推進課の協力を得て、高齢者の誤嚥性肺炎予防の取り組みについて資格を有する者への多職種研修や、介護者への講習など病院と行政の協力体制を築いており、地域の一部の訪問看護施設と情報交換を行ってより充実した在宅ケアへの貢献に努めている。心不全ケア委員会も心不全予防のための啓発的な講習会を予定している。

さらに令和8年1月には緩和ケア病棟を開設するので、地域の在宅緩和ケア医師と連携し、病棟と在宅を組み合わせた看取りの体制を構築できればと考えている。

（４）今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療ＤＸ、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

看護師の確保については敷地内に隣接している「大和高田市立看護専門学校」より毎年数名の看護師を新規採用していますが、それ以外に近隣の大学等を指定校推薦の対象校とし、安定した看護師の確保を目指しています。

3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

[1-2]手術の実施

肺：呼吸器；消化器：乳腺；泌尿器；（男性）生殖器；（女性）生殖器

[1-3]化学療法の実施

実施している

[1-4]放射線治療の実施

実施している

[1-5]拠点病院等の指定

奈良県地域がん診療連携支援病院

[1-6]特記事項

今後も中和医療圏におきまして、がん治療の高度医療を実施する予定であり、外科・泌尿器科を中心にがんの集学的治療（手術療法・化学療法・放射線治療）に取り組んでいきます。

令和6年度からは外科・泌尿器科領域でより専門的ながん治療を目指す為に、ロボット手術の導入を行ってるところです。今後は消化器内科・呼吸器内科領域において外科・放射線治療科とさらなる連携を図り、治療体制を強化し、また、地域ニーズを踏まえた上で緩和ケア病棟の整備を行っていきます。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

○

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

○

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

実施している

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

○

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

○

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

○

[2-8]大動脈瘤手術の実施

○

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

実施している

[2-10]特記事項

心臓血管カテーテル検査及び治療の体制につきましては、令和5年4月より奈良県立医科大学のご支援により常勤医師5名の配置となり、心臓血管カテーテル検査及び治療を開始、現在も可能な範囲で夜間・休日の心血管疾患の急性期医療、緊急心臓カテーテル検査および治療への対応も行っています。今後は、高齢者の増加に伴い、しばらくは心不全患者の増加が見込まれており、病院建替えの際において、24時間心血管疾患の急性期医療の実施・緊急心臓カテーテル検査及び治療の実施が出来るように治療体制を強化し、急性期から慢性期の心不全患者に対応できるように整備を行っていきます。

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応
対応していない

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ
実施している

[3-9]特記事項

令和4年2月の市民アンケートを実施した際、24時間365日の救急対応が全世代からの要望として高い中、当院は頭部外傷の領域において対応困難な状況です。 今後は、病院建替えの際において、脳神経外科の再開（常勤医師の配置）を目指すため、奈良県立医科大学のご支援を要望しております。

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けている

[4-3]大腿骨骨折への対応

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加している

[4-6]特記事項

当院では、救急医療を最重要と考えております。令和4年2月の市民アンケートを実施したなかで、すべての世代からもっとも望む医療とされたことから、目標として年間3,000件を目指し取り組んでいるところです。令和5年は2,700件の目標に対し2,847件とし達成いたしましたが、令和6年は2,546件と減少しました。令和7年も2,500件見込となっていますが、今後は受入を強化し、令和9年までには3,000件を目指しております。

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無
無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数
—

[5-4]訪問リハビリの実施

[5-5]通所リハビリの実施

[5-6]今後の方向性

当院には現在、理学療法士14名、作業療法士3名、言語聴覚士1名の計18名がおり、疾患別リハ、がんリハ、心不全リハ等のリハビリを行っています。今後、益々深刻化する高齢化社会に向けて、また当院に地域包括ケア病棟もあることから、リハビリスタッフの増員を行い、リハビリの強化を図る方針です。

なお、回復期リハビリ病棟はなく、また訪問リハビリ、通所リハビリは、今後行う予定はありません。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

無し

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]特記事項

これまでは内科医師の不足により、地域の中核病院としての期待になかなか応えられなかった状況でしたが、消化器内科、腎臓内科、循環器内科が増員されたことにより、地域の診療所等との連携が可能になる中、病診連携に向け今後の体制を強化しているところです。

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

対応していない

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ない

[7-3]上記でありの場合、その名称

[7-4]特記事項

—

[8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について
定めている

[8-2]特記事項

当院における適切な意思決定支援に関する指針のもと、緩和チームを中心とする多職種関わっています。がん患者、心不全、COPD患者、透析導入患者など幅広い領域での関りが必要となっているため、緩和ケアチームや訪問看護ステーションとも連携し、患者が望むその人らしい生活を支え、穏やかな最期を迎えられるための体制を整えており、令和7年度中に緩和ケア病棟の設立に向けて準備しているところです。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

[9-2]小児入院医療管理料の算定

算定している

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

算定していない

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

受け入れている

[9-5]特記事項

小児二次救急輪番病院として、地域の医療機関や夜間応急診療所と連携し、平日や時間外の救急に対応しています。今後も引き続き、充実した小児医療を継続します。
また令和6年10月からは頭蓋矯正治療（ヘルメット治療）を開始しています。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

[10-2]分娩の取扱い

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

算定している

[10-4]特記事項

公的医療機関として、周産期医療を継続し充実させ中和医療圏の周産期医療の中心として引き続き取り組んでまいります。

ハイリスク妊娠・分娩の患者については、奈良県立医科大学附属病院と連携して対応してまいります。また令和6年7月より経産婦を対象に計画無痛分娩を開始しています。

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

受けている

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

受けている

[11-4]EMIS（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]特記事項

当院は、災害拠点病院およびDMAT指定病院の指定を受け、またEMIS(広域災害救急医療情報システム)に参加しています。

毎年、防災委員会を中心に防災訓練を行っています。また災害被災地へのDMATの派遣はもちろんのこと、令和6年4月1日には「奈良県における災害支援ナースの派遣に関する協定」を締結しています。

今後も災害拠点病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

受けていない

[12-3]特記事項

整形外科の医師1名が天川村診療所へ外来診療で派遣されています。

[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[13-1]当該領域について対応しているか？

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けている

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当しない

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当しない

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当しない

[13-7]特記事項

当院では、研修体制の充実に伴い、この数年フルマッチを継続しています。

また、今後地域に必要とされる診療科を充実させる方針であり、それに伴い研修内容もより充実したものへといきたいと考えます。

研修医や医学生の受け入れを積極的に行うことは、地域に定着する勤務医の確保に繋げる観点からも重要であると考えます。当院は初期研修プログラムの内容の充実や、中規模な病院であるがゆえに研修医の関心や技量に応じたきめ細かな指導、診療科間・部門間の低い垣根、チーム医療が学びやすいこと、またレサシアンシミュレーターでトレーニングできる環境等を積極的にPRし、若手医師の確保に努めています。今後も研修医の受け入れ枠の拡大、残業時間の短縮、他医療機関の研修医への教育等の取組を積極的に行い、充実した研修の場の提供に努めます。また医学生につきましてもメンター実習を積極的に受け入れてまいります。

また近い将来、「NPO法人 卒後臨床研修評価機構」による第三者としての評価を受け、臨床研修病院としての更なる質の向上を目指しています。

[14]医師の働き方改革

[14-1]医師の宿日直許可の取得状況

一部取得済み

[14-2]上記で一部の場合、その範囲

一部取得済み

[14-3]特記事項

医師の宿日直許可については一部の診療科において許可されています。令和6年度以来、超過勤務時間が年間960時間を超える者がおらず、毎月の病院運営会議・診療局主任部長会議・診療局会議において「年休の取得状況」、「残業時間の状況」をスライドにて提示し意識改革に取り組み、超過勤務時間が毎月80時間を超えないように徹底して周知しています。

[15]看護職員の研修機能

[15-1] 特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[15-2] 特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

[15-3]特記事項

—